

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	医学概論	担 当 教 官 名	枝 智津子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ライフステージ、ICF、リハビリテーション、公衆衛生		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業概要>医学概論は、基本的な人間の解剖学的学習をはじめ、成長発達から老化などを理解すること、また主な疾病や障害の概要を理解することによって多職種と連携して役割を果たすために重要な学問である。 到達目標を下記とし、講義計画・内容に沿って講義を進める。</p> <p><到達目標></p> <p>①日本の人口動態・現状を知り、健康概念の歴史や変遷が説明できる。 ②人体の解剖学的名称が言え、疾病と照らし合わせて考えることができる。 ③疾患や障害の病態が説明できる。 ④リハビリテーションの概要と必要性が説明できる。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p>		
講義計画・内容	<p>1「ライフステージにおける心身の変化と健康課題」 2「健康及び疾病の捉え方～健康の概念・疾病の概念・国際生活機能分類(ICF)」 3「身体構造と心身機能①人体部位の名称」 4「身体構造と心身機能②基幹系と臓器の役割①」 5「身体構造と心身機能②基幹系と臓器の役割②」 6「疾病と障害の成り立ち及び回復過程①疾病の発生要因」 7「疾病と障害の成り立ち及び回復過程②病変の成立機序」 8「疾病と障害の成り立ち及び回復過程③障害の概要①」 9「疾病と障害の成り立ち及び回復過程④障害の概要②」 10「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤「リハビリテーションの概要と範囲」 11「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥疾病と障害・その予防等①」 12「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑦「疾病と障害・その予防等②」 13「公衆衛生の概要①公衆衛生の概要」 14「公衆衛生の概要②健康増進と保健医療対策」 15「まとめ」</p>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座①医学概論(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目については、医学的内容が含まれるため難しいと感じると思うが、対象を全人的に理解するうえで必要な知識である。臨床で医師やコメディカル、スタッフとチーム医療を行っていくことの重要性を意識して学んでほしい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	心理学と心理的支援	担当教官名	船曳美千子/花島正晃 濱田恵/山西紀律代
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理的機能、心理検査、心理療法、人と環境、発達		
授業の概要 及び到達目標・ 講師紹介	<p><授業概要> ソーシャルワーカーは、様々な生きづらさを抱えた方を支援する専門職であるため、その対象である人間の心身について理解することが求められる。そこで本授業では、人間の心理的機能、人々の心理的状态を知る「心理検査」、人間の心理的活動等を適応的な方向に働きかける「心理療法」の習得を目指す。またそれらの知識をもとに、個人と集団との関係等についても理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 1. 心理学の基本的な事項・概念を理解できるようになる。 2. 心理的な支援について、理解できるようになる。 3. ソーシャルワークにおける支援を、心理学的視点から捉え、理解できるようになる。</p> <p>【講師紹介】 ・船曳美千子 公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(社会福祉学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要、心理学の視点(心理学の歴史と対象、心を探求する方法の発展) 2. 人の心の基本的な仕組みと機能①(心の生物学的基盤) 3. 人の心の基本的な仕組みと機能②(感情・動機づけ・欲求) 4. 人の心の基本的な仕組みと機能③(感覚・知覚) 5. 人の心の基本的な仕組みと機能④(学習・行動) 6. 人の心の基本的な仕組みと機能⑤(認知) 7. 人の心の基本的な仕組みと機能⑥(知能・パーソナリティ、社会のなかでの心理) 8. 人の心の発達過程(生涯発達、心の発達の基盤) 9. 日常生活と心の健康(心の不適応、健康生成論) 10. 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①(心理アセスメント、心理的支援の基本的技法) 11. 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②(心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職) 12. ソーシャルワークと心理学 13. 総まとめ① 14. 総まとめ② 15. 総まとめ③ 		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
教科書・教材等	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』・その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書とTeamsにアップした資料による講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	心理学と福祉学は、密接な関係があります。また心理学で学んだことは、今後のソーシャルワーク実践で非常に役立ちますので、この授業をもとに基本的な概念や心理検査・心理療法の概要を習得をして下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	社会福祉の原理と政策	担当 教 官 名	花島正晃/吉岡祐紀
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	社会福祉の歴史、現代における社会福祉の意義 社会問題と福祉政策 福祉政策の背景		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業概要>本授業では、主に社会福祉政策へと焦点を当てた授業を展開する。政策への解説に加え、政策の背景や歴史的経緯なども踏まえて社会福祉政策を連続性のある対象として捉えられるようになることを到達目標としている。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉政策の意義について理解できる。 2. 社会問題や歴史的経緯など、政策の背景を踏まえた立体的な理解ができる。 3. 政策から実践、福祉分野から他分野など横断的な視点を習得できる。 <p><教員経歴(吉岡)></p> <p>2005年 社会福祉士 取得 2017年 主任介護支援専門員 取得 2017年 社会福祉学修士号 取得 2007年 京都市勤修地域包括支援センターでの社会福祉士業務を経て、 2014年より、かんしゅうケアプランセンター:主任ケアマネジャー 現職に至る</p> <p><教員経歴(花島)></p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士・修士(健康福祉学) 福祉実践現場においては、教育委員会における学校ソーシャルワークや 市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークを経験。教育分野 では、専門学校専任教員、大学・短期大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<p>【吉岡】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「本科目の特徴と傾向」 2「福祉とは何か」 3「福祉政策の構成要素、過程、評価」 4「福祉政策と包括的支援の現状と課題」 5「福祉政策とSDGs」 6「福祉政策と関連施策①」 7「福祉政策と関連施策②」 8「福祉政策と関連施策③」 9「福祉政策と関連施策④」 10「福祉政策と関連施策⑤」 11「福祉政策と国際比較①」 12「福祉政策と国際比較②」 13「福祉政策と国際比較③」 14「福祉政策の課題と展望」 15「まとめ(国家試験を踏まえて)」 	<p>【花島】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「日本の社会福祉の歴史①」 2「日本の社会福祉の歴史②」 3「欧米の社会福祉の歴史①」 4「欧米の社会福祉の歴史②」 5「社会福祉の思想・哲学」 6「社会福祉の理論①」 7「社会福祉の理論②欧米の社会福祉の理論」 8「社会福祉の論点」 9「社会福祉の対象とニーズ」 10「現代における社会問題」 11「社会問題の構造的背景」 12「福祉サービスの供給と利用過程①福祉供給部門」 13「福祉サービスの供給と利用過程②福祉供給課程」 14「福祉サービスの供給と利用過程③福祉利用過程」 	
準備学習	事前に該当箇所を教科書で予習することが望ましい。また、該当箇所に関する社会問題についてニュースや新聞等を確認し、自身の中で見識を深める姿勢が求められる。		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座④社会福祉の原理と政策(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書及び配布資料による講義形式を主とする。 (吉岡)理解を深めるために個人ワークやグループワークも積極的に取り入れる。		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目は、数ある科目における根本を担う重要な役割を持っています。他の科目にもつながる横断性が本科目の面白さともいえるでしょう。歴史・政策など内容が多岐に渡り理解が難しい用語もあるかもしれませんが、ぜひ興味を持って授業に参加することを望みます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目																
授業科目名	社会学と社会システム	担 当 教 官 名	船曳美千子/花島正晃 濱田恵/山西紀律代																
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年																
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回																
授業のキーワード	社会の仕組み(システム)、社会と人との関係及び生活の理解、社会問題																		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業概要> 社会福祉士は、「クライアント」、「(クライアントを)取り巻く環境」、「両者の関係(相互作用)」に着目し、支援していくため、社会の仕組みを知り、社会と人との関係、社会生活、様々な社会問題を理解することは必要不可欠である。本授業では、社会学の基本的な概念や視点を習得し、現代社会における問題を社会的観点から考えられるようにする。</p> <p>【到達目標】 1. 社会の仕組み、社会と人の関係など、社会的視点を理解し、習得できるようになる。 2. 現代社会を理解する上で必要な基本的概念を習得できるようになる。 3. 社会問題を社会的視点からとらえ、理解できるようになる。</p> <p>【講師紹介】 ・船曳美千子 精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師を取得。修士(社会学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>																		
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)</td> <td>8. 健康</td> </tr> <tr> <td>2. 社会システム、組織と集団</td> <td>9. 労働</td> </tr> <tr> <td>3. 人口、グローバル化、社会変動</td> <td>10. 世代</td> </tr> <tr> <td>4. 地域、環境</td> <td>11. 自己と他者、社会化</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的格差、社会政策と社会問題</td> <td>12. 相互行為、社会学と社会学福祉学の連携・協働</td> </tr> <tr> <td>6. 差別と偏見、災害と復興</td> <td>13. 総まとめ①</td> </tr> <tr> <td>7. 家族とジェンダー</td> <td>14. 総まとめ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総まとめ③</td> </tr> </table>			1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)	8. 健康	2. 社会システム、組織と集団	9. 労働	3. 人口、グローバル化、社会変動	10. 世代	4. 地域、環境	11. 自己と他者、社会化	5. 社会的格差、社会政策と社会問題	12. 相互行為、社会学と社会学福祉学の連携・協働	6. 差別と偏見、災害と復興	13. 総まとめ①	7. 家族とジェンダー	14. 総まとめ②		15. 総まとめ③
1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)	8. 健康																		
2. 社会システム、組織と集団	9. 労働																		
3. 人口、グローバル化、社会変動	10. 世代																		
4. 地域、環境	11. 自己と他者、社会化																		
5. 社会的格差、社会政策と社会問題	12. 相互行為、社会学と社会学福祉学の連携・協働																		
6. 差別と偏見、災害と復興	13. 総まとめ①																		
7. 家族とジェンダー	14. 総まとめ②																		
	15. 総まとめ③																		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読み、アウトラインを把握すること																		
教科書・教材等	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』・その他、授業中に配布する資料																		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式(双方向形式を含む)																		
成績評価の方法	定期試験 100%																		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	対人援助において、社会学の概念やその視点は非常に重要です。単に知識を暗記するのではなく、学んだことをもとに、多角的な視点からの考察を意識しながら、主体的に取り組んで下さい。																		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	障害者福祉	担 当 教 官 名	小出享一/山西紀律代 濱田恵/花島正晃/船曳美千子
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	障害者の権利、障害者総合支援法、バリアフリー、障害者と家族		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> 障害者福祉の歴史から制度の発展過程を学び、障害者とその家族の支援について幅広く学ぶ。ソーシャルワーカーとして適切な支援について総合的に学ぶ。</p> <p><到達目標> 1. 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活と取り巻く生活環境について理解する。 2. 障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について学ぶ。 3. 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 4. ソーシャルワーカーが障害者の生活課題に対してどのような関わりを行うのかを理解する。</p> <p><講師紹介> 小出享一 社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員等を取得。博士(社会学)。独立型社会福祉士事務所を開業、また特定指定相談支援事業所にて相談支援専門員として相談援助業務に従事している。</p> <p>山西紀律代 社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	1「障害概念と特性」 2「障害者の生活実態/障害者を取り巻く社会環境」 3「障害者福祉の理念」 4「障害者観/障害者処遇の変遷」 5「障害者の権利条約と障害者基本法」 6「障害者福祉制度の発展過程」 7「障害者総合支援法①」 8「障害者総合支援法②」 9「身体障害者福祉法/知的障害者福祉法」 10「精神保健福祉法」 11「発達障害者福祉法/児童福祉法」 12「障害者虐待防止法/障害者差別解消法」 13「バリアフリー法/障害者雇用促進法/障害者優先調達推進法」 14「障害者と家族等の支援」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑧障害者福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目																														
授業科目名	社会保障	担 当 教 官 名	関口洋明																														
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年																														
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回																														
授業のキーワード	少子高齢化社会・持続可能な社会保障																																
授業の概要 及び到達目標	<p>・我が国の社会保障制度の基礎知識を学ぶと共にその制度の成立の背景を学ぶ。諸外国の社会保障制度と比較をし、我が国の社会保障制度の抱える課題も検討する。</p> <p>・次の点を到達目標とする。</p> <p>・我が国の社会保障制度の全体像を理解し、年金保険・医療保険・労働保険・介護保険制度、社会扶助、社会福祉制度の具体的な仕組みに関する基礎知識を習得する。</p>																																
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1.導入(これからの社会保障)</td> <td>16.介護保険制度の概要</td> </tr> <tr> <td>2.厚生労働白書から人口問題を考える。</td> <td>17.年金制度の概要①</td> </tr> <tr> <td>3.人口ピジョン2100と人口問題</td> <td>18.年金制度の概要②</td> </tr> <tr> <td>4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義</td> <td>19.労災保険制度と雇用保険制度の概要①</td> </tr> <tr> <td>5.社会保障の理念、社会保障の対象</td> <td>20.労災保険制度と雇用保険制度の概要②</td> </tr> <tr> <td>6.社会保障制度の展開</td> <td>21.生活保護制度の概要</td> </tr> <tr> <td>7.社会保障の財政</td> <td>22.社会手当制度の概要</td> </tr> <tr> <td>8.社会保障給付費・内訳・動向</td> <td>23.社会福祉制度の概要</td> </tr> <tr> <td>9.国民負担率、社会保障と経済</td> <td>24.諸外国の社会保障①</td> </tr> <tr> <td>10. 保険と扶助の考え方</td> <td>25.諸外国の社会保障②</td> </tr> <tr> <td>11.社会保険と社会扶助の考え方</td> <td>26.社会保障の国際比較</td> </tr> <tr> <td>12.社会保険と民間保険</td> <td>27.社会保障の国際化</td> </tr> <tr> <td>13.医療保険制度の概要</td> <td>28.ゲストスピーカー</td> </tr> <tr> <td>14. 中間まとめ①</td> <td>29. 総まとめ①</td> </tr> <tr> <td>15. 中間まとめ②</td> <td>30. 総まとめ②</td> </tr> </table>			1.導入(これからの社会保障)	16.介護保険制度の概要	2.厚生労働白書から人口問題を考える。	17.年金制度の概要①	3.人口ピジョン2100と人口問題	18.年金制度の概要②	4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義	19.労災保険制度と雇用保険制度の概要①	5.社会保障の理念、社会保障の対象	20.労災保険制度と雇用保険制度の概要②	6.社会保障制度の展開	21.生活保護制度の概要	7.社会保障の財政	22.社会手当制度の概要	8.社会保障給付費・内訳・動向	23.社会福祉制度の概要	9.国民負担率、社会保障と経済	24.諸外国の社会保障①	10. 保険と扶助の考え方	25.諸外国の社会保障②	11.社会保険と社会扶助の考え方	26.社会保障の国際比較	12.社会保険と民間保険	27.社会保障の国際化	13.医療保険制度の概要	28.ゲストスピーカー	14. 中間まとめ①	29. 総まとめ①	15. 中間まとめ②	30. 総まとめ②
1.導入(これからの社会保障)	16.介護保険制度の概要																																
2.厚生労働白書から人口問題を考える。	17.年金制度の概要①																																
3.人口ピジョン2100と人口問題	18.年金制度の概要②																																
4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義	19.労災保険制度と雇用保険制度の概要①																																
5.社会保障の理念、社会保障の対象	20.労災保険制度と雇用保険制度の概要②																																
6.社会保障制度の展開	21.生活保護制度の概要																																
7.社会保障の財政	22.社会手当制度の概要																																
8.社会保障給付費・内訳・動向	23.社会福祉制度の概要																																
9.国民負担率、社会保障と経済	24.諸外国の社会保障①																																
10. 保険と扶助の考え方	25.諸外国の社会保障②																																
11.社会保険と社会扶助の考え方	26.社会保障の国際比較																																
12.社会保険と民間保険	27.社会保障の国際化																																
13.医療保険制度の概要	28.ゲストスピーカー																																
14. 中間まとめ①	29. 総まとめ①																																
15. 中間まとめ②	30. 総まとめ②																																
準備学習	自分自身の生活に密着している科目であることから時事や新聞などのニュースにて日常的に意識し、情報収集しておく。																																
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑦社会保障(中央法規出版)																																
授業の形式 教育機器の活用	講義・視聴覚機器利用																																
成績評価の方法	定期試験(中間・期末)100%																																
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会保障は私たちの生活に密着している制度、施策であり、ソーシャルワーカーとしても必要な知識としての力量が求められます。国家試験に対応するための知識は最低限必要ですが、ソーシャルワーカーとして実践に役立つ事例も合わせて学んでいきたいと考えています。																																

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	社会福祉調査の基礎	担 当 教 官 名	宮江 真矢
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	データ収集・分析、量的調査、質的調査、評価		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> 社会福祉調査の歴史や目的、方法論や倫理といった社会福祉調査の意義について学び、量的調査と質的調査など、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を実例をもとに概説する。</p> <p><到達目標> 本授業ではこの社会福祉調査の基本的な知識の習得を目的とし、社会福祉調査から得られたデータの読み解きができるようになることを目標とする。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解する。</p> <p><講師経歴> 社会福祉士。医療ソーシャルワーカー(MSW)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の経験を活かし、2018年10月より京都精華大学学生相談室キャンパスソーシャルワーカー(CSW)として勤務していた。ソーシャルワークを通して学生を取り巻く心理、福祉問題の解決を行っている。</p>		
講義計画・内容	1「社会福祉調査の意義と目的①」 2「社会福祉調査の意義と目的②統計法」 3「社会福祉調査における倫理と個人情報」 4「社会福祉調査のデザイン①調査における考え方と論理」 5「社会福祉調査のデザイン②調査の目的と対象」 6「社会福祉調査のデザイン③データ収集・分析/プロセス」 7「量的調査の方法①量的調査の概要」 8「量的調査の方法②量的調査の種類と方法」 9「量的調査の方法③質問紙の作成方法/集計と分析」 10「質的調査の方法①概要と方法」 11「質的調査の方法②記録の方法/分析方法」 12「ソーシャルワークにおける評価の意義」 13「ソーシャルワークにおける評価対象」 14「ソーシャルワークにおける評価方法」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑤社会福祉調査の基礎(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉調査は、社会的ニーズを把握し、その充足の過程において必要となる利用者理解やサービス評価に必要な客観的な「認識」を得る機能があります。それらを正しく吟味できる能力を身につけ、知識や実践のレベルを高めていきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	地域福祉と包括的支援体制	担 当 教 官 名	渡邊一真/濱田恵/花鳥正晃 船曳美千子/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	地域福祉、地域共生社会、地域ケアシステム、地域生活課題		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要>社会的ニーズが増大し、これまで以上に、地域福祉への期待が高まっている。そのような中、ソーシャルワーカーとして、どの分野で活躍するにしても地域社会、地域住民との協働をもとにした地域福祉の考え方が大きな要素となる。本授業では、地域福祉の基本的な考え方から地域生活課題にソーシャルワーカーとしてどのように働き掛けるのか総合的に学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉の対象となる住民の主体性について理解する。 3. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 4. 包括的支援体制の考え方について理解し、多職種・多機関との連携について理解する。 5. 地域生活課題におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。 <p><教員の経歴(渡邊)>2003年 社会福祉士取得 1995年 京都府社会福祉協議会入職 2019年 日本福祉教育・ボランティア学習学会 理事</p> <p><教員の経歴(濱田)>社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p>		
講義計画・内容	<p>【渡邊】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「地域社会の概念と理論/地域社会の変化」 2「多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ」 3「地域福祉と社会的孤立」 4「地域福祉ガバナンス」 5「地域共生の実現に向けた多機関協働①他機関協働を促進するしくみ①」 6「地域共生の実現に向けた多機関協働①」 7「地域共生の実現に向けた多機関協働②多職種連携」 8「地域共生の実現に向けた多機関協働③福祉以外の分野と協働」 9「地域福祉の概念と理論」 10「地域福祉の動向」 11「地域福祉の推進主体/地域福祉の主体と形成」 12「福祉計画の意義・目的と展開」 13「市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉計画の定義と機能」 14「福祉計画の策定過程と方法/実施と評価」 15「まとめ」 	<p>【濱田】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「地域包括ケアシステム」 2「生活困窮者自立支援の考え方①」 3「生活困窮者自立支援の考え方②」 4「包括的支援体制」 5「地域共生社会の構築」 6「地域共生社会の実現に向けた各種施策」 7「地域福祉の歴史①」 8「地域福祉の歴史②」 9「地域を基盤としたソーシャルワークの方法①」 10「地域を基盤としたソーシャルワークの方法②」 11「災害支援①非常時や災害時における法制度」 12「災害支援②総合的かつ包括的な支援」 13「福祉行財政システム①国・都道府県・市町村の役割」 14「福祉行財政システム②福祉行財政の組織及び専門職の役割/財源」 15「まとめ」 	
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥地域福祉と包括的支援体制(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、地域で暮らすとはどういうことか、住民としての目線・本人としての目線を意識して講義に挑んでください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	権利擁護を支える法制度	担 当 教 官 名	五百木 孝行
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	権利擁護 成年後見制度 社会福祉基礎構造改革 自己決定 意思決定支援 利用促進計画		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉基礎構造改革により、「措置」から「契約」へのパラダイム転換を経て、福祉サービスを「購入」するために、質の良いサービスの供給や苦情解決、契約能力の確保など、従来とは異なるサービス利用の下支えが必要となった。そのための仕組みを理解することが、本講義の目的です。</p> <p>権利擁護を支える法制度における意思決定支援による自己決定権とエンパワメント。自己責任と公的責任つまりはサービス利用と公的介入などについて、ソーシャルワークの思想を背景に学習を進めていきます。</p> <p>ソーシャルワークの担い手として身につける必要のある成年後見制度、権利擁護制度。憲法、行政法、民法、消費者の法制度について学習を深め、権利擁護の担い手の役割などについて理解する。また現在、成年後見制度は、利用促進基本計画が実施されており、その現状についても学習し、理解することを目標とします。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:はじめに～ソーシャルワークと法のかかわり 第2回:ソーシャルワークにおける主要な法(1)～憲法の理解 第3回:ソーシャルワークにおける主要な法(2)～民法の理解(1) 第4回:ソーシャルワークにおける主要な法(3)～民法の理解(2) 第5回:ソーシャルワークにおける主要な法(4)～行政法の理解 第6回:成年後見制度(1)～後見 第7回:成年後見制度(2)～保佐・補助及び義務と責任等 第8回:成年後見制度(3)～任意後見・未成年後見 第9回:権利擁護にかかわる組織・団体(1)～家裁・法務局 第10回:権利擁護にかかわる組織、団体(2)～自治体・社協・児相など 第11回:権利擁護にかかわる専門職(1)(2)～社会福祉士・弁護士など 第12回:権利擁護の意義と支える仕組み 第13回:権利擁護活動と意思決定支援 第14回:今後の権利擁護を支える法制度 第15回:全体のまとめ</p>		
準備学習	<p>権利擁護を支える法制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。特に、憲法、行政法、民法などの主要な法の基礎的な理解を深めるために教科書の理解は大切です。また社会福祉基礎構造改革の内容について教科書等で事前学習をしていただくことも大切です。</p>		
教科書・教材等	<p>最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑨権利擁護を支える法制度(中央法規出版) 『社会福祉小六法』(最新版) ミネルヴァ書房</p>		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>権利擁護を支える法制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための法律や制度等の知識だけでなく、なるべく福祉現場で役に立つ実務経験の話などもしていきたいと考えています。実務現場をイメージして授業に積極的に取り組んでください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	刑事司法と福祉	担 当 教 官 名	中川るみ/船曳美千子 濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	刑法、少年法、更生保護、医療保護制度、犯罪被害者支援		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> 刑事司法の動向・制度などを総合的に学び、刑事司法においてソーシャルワーカーがどのような役割を担う必要があるのかを総合的に学ぶ。</p> <p><到達目標> 1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2. 刑事司法における社会福祉士・精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。</p>		
講義計画・内容	<p>1「刑事司法における近年の動向」 2「刑事司法を取り巻く社会環境/社会福祉士・精神保健福祉士の役割」 3「刑事司法① 刑法」 4「刑事司法② 刑事事件の手続きと処遇」 5「少年司法① 少年法」 6「少年司法② 少年事件の手続きと処遇」 7「更生保護① 制度の概要/生活環境の調整」 8「更生保護② 仮釈放等/保護観察」 9「更生保護③ 更生緊急保護/団体・専門職等の役割と連携」 10「医療保護制度① 制度の概要」 11「医療保護制度② 審判・処遇の流れ」 12「医療保護制度③ 関係機関・専門職の役割と連携」 13「犯罪被害者支援① 犯罪被害者の地位の変遷/犯罪被害者支援に対する法」 14「犯罪被害者支援② 犯罪被害者支援に関する制度/団体・専門職等の役割と連携」 15「まとめ」</p>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑩刑事司法と福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉士養成科目の中では、法学系科目である。 法務省や行政職員の新たな新採用の領域であり、社会福祉士が求められている。 ニーズ把握に始まるソーシャルワークのアプローチが今後も期待され、多機関連携の理解と連携を求められる。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	担 当 教 官 名	山西紀律代・濱田恵・花島正晃・船曳美千子
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルインクルージョン、倫理綱領		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> ソーシャルワークの基盤となる考え方や形成過程、価値規範と倫理について学び、ソーシャルワーカーの在り方について理解する。</p> <p><到達目標> 1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 2. ソーシャルワークの基盤となる考え方と形成過程について理解する。 3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p><講師紹介> 山西紀律代 社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	1「社会福祉士及び介護福祉士法」 2「精神保健福祉士法」 3「社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性」 4「ソーシャルワークの定義」 5「ソーシャルワークの原理」 6「ソーシャルワークの理念① 当事者主権/権利擁護」 7「ソーシャルワークの理念② ソーシャルインクルージョン/ノーマライゼーション」 8「ソーシャルワークの形成過程①」 9「ソーシャルワークの形成過程②」 10「専門職倫理の概念」 11「倫理綱領① ソーシャルワーカーの倫理綱領」 12「倫理綱領② 社会福祉士の倫理綱領」 13「倫理綱領③ 精神保健福祉士の倫理綱領」 14「倫理的ジレンマ」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑩ソーシャルワークの基盤と専門職【共通・社会専門】(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけや、資格の専門性について学びます。また、国家試験に対応するための知識の習得だけではなく、実践現場においてクライアント一人ひとりに応じた支援ができるよう、ソーシャルワークの専門的な知識や技術、価値について理解を深めることを目的とします。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法	担 当 教 官 名	米津達也
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ
授業のキーワード	人と環境の相互作用、ソーシャルワークのプロセス、実践モデルとアプローチ		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: ソーシャルワークにおける構造と機能を基礎的に学び、その上で、実践における展開過程の技術について学ぶ。長年、高齢福祉分野でケースワークと地域連携を実践し、現在も介護支援専門員としてケースワークやスーパービジョンに臨む教員が、基礎技術の解説と事例を通じた応用学習を展開。学生同士のグループディスカッションを通じて、現場で活かせる実践力と国家試験に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>①ソーシャルワークのシステム構造と機能について学び、人の暮らしに関する理解を深める ②展開過程と実践モデル、アプローチを学び、国家試験問題をクリアできる ③事例を通じて実践理解を深め、それを他者と共有できる</p> <p><実務者経験> 2006年 社会福祉士 取得 介護老人保健施設にて支援相談員業務 2012年 介護支援専門員 取得 居宅介護支援事業所にて管理者兼介護支援専門員業務 2013年 社会福祉科「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」担当 2019年 主任介護支援専門員 取得</p>		
講義計画・内容	<p>1～2. ソーシャルワーカーが学ぶ理論、システム理論 3～4. 生態学理論、BPSモデル、マイクロ・メゾ・マクロモデル、目標と展開 5～6. ケース発見、インテーク 7～8. アセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、終結と評価 9～10. 3つのモデル、心理社会的アプローチ 11～12. 機能的アプローチ、問題解決アプローチ 13～14. 課題中心アプローチ、行動変容アプローチ 15. 本科目のまとめ① 16. 認知アプローチ 17. 危機介入アプローチ 18. エンパワメントアプローチ 19～20. ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ、その他のアプローチ 21～22. 面接の技術、記録の技術 23～24. ケアマネジメント、グループを活用した支援 25～26. コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション 27. ソーシャルアクション 28～29. スーパービジョン 30. 本科目のまとめ②</p>		
準備学習	講義前にテキストにおける対象単元を読み込み、単元目標を理解しておくこと		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫ソーシャルワークの理論と方法【共通科目】(中央法規出版)		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義 視聴覚機器使用、グループディスカッションによる事例演習		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義では、テキストに沿った基礎知識の取得を講義形式にて行います。これにより、国家試験問題に準じた知識の取得が可能になります。また、事例やテーマを通じたグループによる演習を行います。学んだこと、感じたこと、考えたことを他者と共有することで、知識を深く身に付け、実践に活かせる技術を学びます。特にグループ演習に関しては、主体的に参加する心構えを大切にしてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	ソーシャルワーク演習	担 当 教 官 名	和泉亮/濱田恵/高橋裕将/ 花島正晃/船曳美千子/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、自己覚知、ソーシャルワークの展開過程 等		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の内容】 本講義では、ソーシャルワークの礎となる自己覚知からはじまり、個人、グループを通じた演習形式の学びを通じて、専門職としての基本的知識、役割、専門性について実践的に理解をしていきます。</p> <p>【到達目標】 1.自己洞察、内省そして重要な他者を通じて自己理解を深める。 2.ソーシャルワークの価値・知識・技術の基本を理解するとともに、自身の考えを持ち、他者に表明できるようになる。 3.ソーシャルワークの展開について、実践的演習を通じて、実践をPDCAサイクルで評価して行けるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.全体授業概要(福祉とは、自己覚知とは) 2.基本的コミュニケーション技術①自己の振り返り 3.基本的コミュニケーション技術②他者理解 4.基本的コミュニケーション技術③バーバル、ノンバーバル 4.基本的コミュニケーション演習 5.面接場面①構造的、非構造的 6.面接場面②環境設定 7.面接場面③相談援助の展開過程 8.面接場面④記録 9.面接場面演習① 10.面接場面演習② 11.グループを対象とした支援①展開過程 12.グループを対象とした支援②演習 13.事例演習① 14.事例演習② 15.本科目のまとめ 		
準備学習	事前学習のほかにも、SNS等も活用し福祉サービス利用者とその家族を取り巻く社会全体に意識を向け、多方面の情報収集を意識すること。		
教科書・教材等	講義形式の授業の他にも個人でワークをする時間や意見交換をする時間を設ける。		
授業の形式 教育機器の活用	レジュメ、資料、視聴覚教材等を適時提供		
成績評価の方法	各項目ごとの課題の内容/グループワーク等における貢献度で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義においては、講義を一方的に聴く受動的な学びではなく、学生同士や学生と講師等、双方向かつ能動的なコミュニケーションを大切にしています。お互いが良い影響を与え合い、その場にいるもの同士が相互に経験を分かち合い、成長しあうことを目標としていますので、積極的に自身の考えを発信するよう努めてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基準)	専門科目
授業科目名	精神医学と精神医療	担 当 教 官 名	藤井 あゆみ
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	精神医学 精神医療 人権擁護 司法精神医学		
授業の概要 及び到達目標	<p>精神保健福祉士の実践の基礎となる精神医療の知識を学ぶ。言うまでもなく、精神保健福祉士は精神疾患を抱えるクライアントを対象としているため、精神医学の基礎知識を身につけることが必須である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。 ③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患総論 I—精神医学の歴史、II—脳および神経の解剖生理 2. 精神疾患総論 III—精神医学の概念、IV—精神疾患の診断 ① 3. 精神疾患総論 IV—精神疾患の診断 ② 4. 代表的な精神疾患 I—器質性精神障害 5. 代表的な精神疾患 II—精神作用物質使用による障害 6. 代表的な精神疾患 III—統合失調症 7. 代表的な精神疾患 IV—気分障害 8. 代表的な精神疾患 V—神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害 9. 代表的な精神疾患 VI—生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 10. 代表的な精神疾患 VII—成人のパーソナリティおよび行動の障害 11. 代表的な精神疾患 VIII—知的障害(精神遅滞) 12. 代表的な精神疾患 IX—心理的発達障害 13. 代表的な精神疾患 X—小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 14. まとめ1 15. まとめ2 16. 代表的な精神疾患 XI—神経系の疾患(てんかんを含む) 17. 精神疾患の治療 I—身体療法 18. 精神疾患の治療 II—精神療法 19. 精神疾患の治療 III—精神障害リハビリテーション 20. 病院精神医療と地域精神医療 I—病院精神医療の現状と課題 21. 病院精神医療と地域精神医療 II—精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士 22. 病院精神医療と地域精神医療 III—精神科救急医療 23. 病院精神医療と地域精神医療 IV—地域医療の展開 24. 病院精神医療と地域精神医療 V—精神医療と福祉の連携 25. 精神医療における人権擁護 I—精神科医療機関と患者の人権 26. 精神医療における人権擁護 II—インフォームドコンセントとアドヒアランス 27. 司法精神医学 I—司法精神医学総論 28. 司法精神医学 II—司法精神医療の実際 29. まとめ1 30. まとめ2 		
準備学習	配布プリントおよび教科書の内容を復習しておくこと。		
教科書・教材等	新・精神保健福祉士養成セミナー 精神医学と精神医療(第1版) へるす出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修の留意点)	たんに試験対策としての知識を得るためだけに授業に参加するのではなく、精神疾患を抱える方々とのように向き合っていくべきか考え、臨床をつねに意識しながら授業に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基準)	専門科目
授業科目名	精神保健福祉の原理	担当教官名	金井 浩一
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業の概要 及び到達目標	<p>本科目では、精神保健福祉士の専門性にある「価値・知識・技術」を中心に据え、ソーシャルワークにおける様々な援助技術並びに支援の展開方法、さらには「精神障害者」の定義及び特性を踏まえた支援における精神保健福祉士の意義と役割について理解を深めることを目標とする。</p> <p>また、専門職として拠り所となる各種法律や倫理綱領についても学び、求められる精神保健福祉士のあり方を検討していく。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 初回オリエンテーション 2 障害者福祉の視点 3 障害者基本法と障害者総合支援法 4 ソーシャルワークの専門性 5 精神障害にまつわる歴史 6 障害者の権利・人権について 7 精神障害者の権利・人権について 8 精神保健福祉士法の制定 9 精神保健福祉士の役割 10 日本の精神保健福祉の歴史① 11 日本の精神保健福祉の歴史② 12 海外の精神保健福祉の歴史① 13 海外の精神保健福祉の歴史② 14 精神保健福祉士の専門性 15 中間まとめ 16 支援の展開過程 17 家族への支援/面接の構造と技術 18 PSWの専門性と多職種連携 19 PSWの専門性とチーム医療 20 グループを活用した支援 21 スーパービジョンとコンサルテーション 22 精神障害者のケアマネジメント 23 地域を対象とした支援 24 リハビリテーションの概念 25 ACTについて 26 アウトリーチ支援 27 依存症の支援 28 共生社会について 29 ピアサポートの実際 30 総まとめ 		
準備学習	配布プリントおよび教科書の内容を復習しておくこと。		
教科書・教材等	「新・精神保健福祉士養成セミナー 精神保健福祉の原理」へるす出版		
授業の形式/教育機器の活用	対面講義 グループワーク含む		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	精神保健福祉制度論	担 当 教 官 名	南條 康代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	精神保健福祉法、医療観察法、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度等		
授業の概要 及び到達目標	<p>精神障害者に関する法制度の体系について理解する。主に、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度や、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題の理解する。また、それらの制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。</p> <p>【教員経歴】 精神保健福祉士・社会福祉士 相談支援専門員 精神科医療機関における相談援助歴17年</p>		
講義計画・内容	<p>1回 オリエンテーション(精神障害者に関する制度・施策の理解にむけて) 2回 精神保健福祉法1 3回 精神保健福祉法2 4回 精神保健福祉法3 5回 精神障害者の医療に関する課題1 6回 精神障害者の医療に関する課題2 7回 医療観察法1 8回 医療観察法2 9回 精神障害者の相談支援 10回 精神障害者の相談支援2 11回 精神障害者の居住支援 12回 精神障害者の就労支援 13回 精神障害者と生活保護 14回 精神障害者と低所得 15回 総まとめ</p>		
準備学習	下記の教科書を読んで講義に臨んでください。		
教科書・教材等	精神保健福祉士養成セミナー 精神保健福祉制度論 へるす出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義・グループワーク		
成績評価の方法	試験(100%)で評価とします。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	配布資料を軸に抗議を展開します。本講義は精神科ソーシャルワークの法的、制度的な基礎について学ぶものであり、同時に権利擁護や意思決定支援などを考える上での基盤になる事柄です。知識の蓄積だけではなく、「積極的に考える」ことを希望します。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	必修科目																														
授業科目名	現代の精神保健の課題と支援	担 当 教 官 名	西村 伸																														
対象学生	第1学年	履修学期	通年																														
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																														
授業のキーワード	ライフサイクル、家庭・学校・職場・地域、社会の課題と精神保健の関連性																																
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】現代の精神保健上の課題の広がりから、精神保健福祉士の職域が拡大しています。ライフサイクル、領域、その2つが重なり生じる課題の3つの視点からテーマを定め、講義します</p> <p>【到達目標】精神保健の課題を社会とのつながりで捉え支援で用いることができることを目指します。精神保健福祉士の活動で、精神保健の諸課題を念頭に業務が行うことができることを目標とします。</p> <p>【実務者経験】学歴：社会福祉学修士、資格：社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師、職歴：就労継続支援B型事業所・生活支援員(平成18年4月～平成21年4月)、障害者相談支援事業所(平成21年6月～現在)</p>																																
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1:概説-患者調査、健康概念、ICF</td> <td>16:ひきこもりガイドライン</td> </tr> <tr> <td>2:概説-疾病・事例性、地域精神保健</td> <td>17:ひきこもり-家族支援、各種対策</td> </tr> <tr> <td>3:周産期-周産期の精神疾患</td> <td>18:発達障害-診断基準、3つ組の障害</td> </tr> <tr> <td>4:周産期-切れ目のない支援</td> <td>19:発達障害-発達障害者支援法</td> </tr> <tr> <td>5:児童虐待-児童虐待の類型と捉え方</td> <td>20:嗜癖-依存症-心身に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>6:児童虐待-通告義務と要対協</td> <td>21:嗜癖-依存症-治療・支援や対策</td> </tr> <tr> <td>7:学校-不登校</td> <td>22:嗜癖-依存症-アルコール健康障害対策基本法、行動嗜癖、SHG</td> </tr> <tr> <td>8:学校-いじめと子どもの自殺</td> <td>23:災害-ストレス障害、心理的支援</td> </tr> <tr> <td>9:学校-教員のバーンアウト、学校のプラットフォーム化とチーム学校</td> <td>24:災害-DPAT、SFA</td> </tr> <tr> <td>10:自殺予防-統計、要因と危機経路</td> <td>25:職場-労働環境、各種指針</td> </tr> <tr> <td>11:自殺予防-自殺対策の経緯と自殺対策基本法と自殺総合対策大綱</td> <td>26:職場-働き方改革関連法、支援と対策</td> </tr> <tr> <td>12:自殺予防-ゲートキーパー</td> <td>27:職場-ストレスチェック制度</td> </tr> <tr> <td>13:LGBT-動向、ガイドライン</td> <td>28:高齢期-死別とグリーフケア、ターミナルケア、認知症対策</td> </tr> <tr> <td>14:LGBT-LGBTに係る法律</td> <td>29:高齢期-介護保険、地域包括ケア</td> </tr> <tr> <td>15:第1回～第14回のみとめ</td> <td>30:第16回～第29回のみとめ</td> </tr> </table>			1:概説-患者調査、健康概念、ICF	16:ひきこもりガイドライン	2:概説-疾病・事例性、地域精神保健	17:ひきこもり-家族支援、各種対策	3:周産期-周産期の精神疾患	18:発達障害-診断基準、3つ組の障害	4:周産期-切れ目のない支援	19:発達障害-発達障害者支援法	5:児童虐待-児童虐待の類型と捉え方	20:嗜癖-依存症-心身に及ぼす影響	6:児童虐待-通告義務と要対協	21:嗜癖-依存症-治療・支援や対策	7:学校-不登校	22:嗜癖-依存症-アルコール健康障害対策基本法、行動嗜癖、SHG	8:学校-いじめと子どもの自殺	23:災害-ストレス障害、心理的支援	9:学校-教員のバーンアウト、学校のプラットフォーム化とチーム学校	24:災害-DPAT、SFA	10:自殺予防-統計、要因と危機経路	25:職場-労働環境、各種指針	11:自殺予防-自殺対策の経緯と自殺対策基本法と自殺総合対策大綱	26:職場-働き方改革関連法、支援と対策	12:自殺予防-ゲートキーパー	27:職場-ストレスチェック制度	13:LGBT-動向、ガイドライン	28:高齢期-死別とグリーフケア、ターミナルケア、認知症対策	14:LGBT-LGBTに係る法律	29:高齢期-介護保険、地域包括ケア	15:第1回～第14回のみとめ	30:第16回～第29回のみとめ
1:概説-患者調査、健康概念、ICF	16:ひきこもりガイドライン																																
2:概説-疾病・事例性、地域精神保健	17:ひきこもり-家族支援、各種対策																																
3:周産期-周産期の精神疾患	18:発達障害-診断基準、3つ組の障害																																
4:周産期-切れ目のない支援	19:発達障害-発達障害者支援法																																
5:児童虐待-児童虐待の類型と捉え方	20:嗜癖-依存症-心身に及ぼす影響																																
6:児童虐待-通告義務と要対協	21:嗜癖-依存症-治療・支援や対策																																
7:学校-不登校	22:嗜癖-依存症-アルコール健康障害対策基本法、行動嗜癖、SHG																																
8:学校-いじめと子どもの自殺	23:災害-ストレス障害、心理的支援																																
9:学校-教員のバーンアウト、学校のプラットフォーム化とチーム学校	24:災害-DPAT、SFA																																
10:自殺予防-統計、要因と危機経路	25:職場-労働環境、各種指針																																
11:自殺予防-自殺対策の経緯と自殺対策基本法と自殺総合対策大綱	26:職場-働き方改革関連法、支援と対策																																
12:自殺予防-ゲートキーパー	27:職場-ストレスチェック制度																																
13:LGBT-動向、ガイドライン	28:高齢期-死別とグリーフケア、ターミナルケア、認知症対策																																
14:LGBT-LGBTに係る法律	29:高齢期-介護保険、地域包括ケア																																
15:第1回～第14回のみとめ	30:第16回～第29回のみとめ																																
準備学習	事前に指示した映像教材を視聴の上、講義に臨むことがあります。																																
教科書・教材等	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版(最新精神保健福祉士養成講座2)																																
授業の形式 教育機器の活用	講義 ①視聴覚教材使用、②パワーポイントスライド、③事例、④試験問題演習																																
成績評価の方法	定期試験(前期・後期各1回)100%																																
担当教官から (履修の留意点)	本講義では、精神保健福祉士国家試験に合格できる知識を身につけることに主眼をおいています。加えて、精神保健福祉士の実践との結びつきで、講義を進めます。精神保健に関わる様々な事象に興味を持ち、講義に臨んでください。																																

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	精神障害リハビリテーション	担 当 教 官 名	和泉 亮
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	リハビリテーション、プログラム、リカバリー、ピアサポート等		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の内容】 本講義では、精神障害者の生活、障害の理念、精神障害者福祉の歴史等を下敷きに精神障害リハビリテーションを理解する。各種リハビリテーションの違い、それぞれの支援プロセス・プログラムに関する学びを通して、本人は勿論、その家族を含めた支援の実際について考えられるよう基本的知識を習得していく。</p> <p>【到達目標】 1.精神障害リハビリテーションを理解するプロセスを通して、それに関わる自分自身のソーシャルワーカーとしての関わり方を考え自己理解を深める。 2.精神障害リハビリテーション全般について理解するとともに、現状の社会の諸課題に対して自分の考えを持ち意見が言えるようになる。 3.精神障害リハビリテーションの課題について、現状の制度等にとらわれず自由な未来を提案する創造力を培う。</p> <p><教員経歴> <教員経歴(和泉)>2006年精神保健福祉士取得。旧法時代の精神障害者通所授産施設、精神科クリニックソーシャルワーカー、総合支援法の就労移行支援事業所の勤務経験。光華女子大学、龍谷大学、大阪歯科大学、京都医健専門学校非常勤講師 大阪市立大学都市経営研究科附属都市経営研究センター4号研究員</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.全体授業概要、障害の多様性、ICF等について 2.精神障害リハビリテーションの過去、現在、未来① 3.精神障害リハビリテーションの過去、現在、未来②(各種リハビリテーション) 4.精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク① 4.精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク②(支援プロセス) 5.精神障害に係る各種法律、制度① 6.精神障害に係る各種法律、制度② 7.精神障害リハビリテーション実施主体① 8.精神障害リハビリテーション実施主体② 9.各種リハビリテーション①(医学的/心理的領域) 10.各種リハビリテーション②(職業/就労領域) 11.各種リハビリテーション③(地域生活領域) 12.各種リハビリテーション④(教育領域) 13.障害当事者とその家族に対するリハビリテーション 14.リカバリー、ピアサポート 15.本科目のまとめ 		
準備学習	テキストによる事前学習のほかにも、SNS等も活用し精神障害者を取り巻く社会全体に意識を向け多方面の情報収集を意識すること。		
教科書・教材等	「新・精神保健福祉士養成セミナー 精神障害リハビリテーション論」へるす出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式の授業の他にも個人でワークをする時間や意見交換をする時間を設ける。		
成績評価の方法	定期試験により評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法【専門】	担 当 教 官 名	大石 裕一郎
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	専門性 倫理 権利擁護 自己決定 自己覚知 ソーシャルインクルージョン エンパワメント ストレngths 家族支援、多職種連携、多機関連携、マイクロ・メゾ・マクロ		
授業の概要 及び到達目標	<p>ソーシャルワークの理論と方法を理解し実行できるようになることは、精神保健福祉士が身につけるべき基礎中の基礎である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①精神保健福祉士の意義や役割、社会福祉の歴史、価値、理念、倫理にかかわる精神保健福祉士の本質的な部分を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②「精神保健福祉にかかわる専門職とは」という、基礎的な事項を理解できるようになる。</p> <p>実務経験:2008年より西宮市地域活動支援センター、2010年から現在まで医療法人博友会に所属。医療や地域、就労支援の現場にて相談支援、各種プログラム、企業支援等を行っている。</p>		
講義計画・内容	<p>1.自己覚知について 2.ストレングスモデル 3.精神科クリニック見学会 4.エンパワメントとセルフエスティーム 5.コンセンサス 6.アサーション 7.統合失調症・発達障害の理解 8.ラポールと自己決定 9.精神保健福祉士の感情コントロール 10.精神保健福祉士のコミュニケーション 11.就労支援・ジョブコーチについて 12.多職種連携・多機関連携 13.精神保健福祉士の倫理① 14.これまでのふりかえり 15.まとめ</p> <p>16.精神保健福祉士の倫理②秘密保持 17.精神保健福祉士の倫理③権利擁護 18.精神保健福祉士の面接技術① 19.精神保健福祉士の面接技術② 20.精神保健福祉士の面談技術③ 21.アセスメントスキル① 22.アセスメントスキル② 23.アセスメントスキル③ 24.アセスメントスキル④ 25.アセスメントスキル⑤ 26.家族支援について① 27.家族支援について② 28.記録の書き方 29.これまでのふりかえり 30.総まとめ</p>		
準備学習	教科書を読む等の事前学習が望ましい		
教科書・教材等	ソーシャルワークの理論と方法【専門】		
授業の形式 教育機器の活用	講義 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験100% (前期/後期各1回)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験の合格はもちろん、資格を取って現場で働くときに求められる実践的なスキル、視点について、講義だけでなくグループワークを用いて楽しく学ぶことを重視しています。積極的な発言を期待しています。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	ソーシャルワーク演習(専門)	担 当 教 官 名	金井浩一/花島正晃/船曳美千子/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必須	授業回数	45回
授業のキーワード	精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)		
授業の概要 及び到達目標	<p><講義内容> 他の学科目、ソーシャルワーク演習等における学びを踏まえ、精神疾患に苦しみ利用者をイメージし、その支援展開に向けた精神保健福祉士としての基礎を学ぶ。福祉実践における発展的連携を志向し、それぞれの専門職の視点や役割について理解し、そのコーディネートに求められるスキルについて理解を深める。</p> <p><達成目標> ・様々な状況を想定し、支援を柔軟に修正していくことができる ・知識としての法制度だけでなく、その活用方法に関する基本的知識を備える ・地域との関わりを意識した支援について自分の考えをもつ</p> <p><教員経歴> 花島:精神保健福祉士・社会福祉士・認定心理士。修士(健康福祉学)大学、短期大学等にて非常勤講師を経験。教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークに従事。 船曳:精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師。修士(社会福祉学)、法務博士(専門職)社会的養護経験者の自立支援相談業務経験あり 山西:精神保健福祉士、社会福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義オリエンテーション 2. 精神疾患について① 3. 精神疾患について② 4. アンガーマネジメントについて 5. バルネラビリティについて 6. 自己決定について 7. 当事者活動について 8. ピアスタッフについて 9. 事例検討へ向けて 10. 事例検討の意義について 11. 事例検討(医療機関)① 12. 事例検討(医療機関)② 13. 事例検討(医療機関)振り返り 14. 事例検討(地域生活支援)① 15. 事例検討(地域生活支援)② 16. 事例検討(地域生活支援)振り返り 17. 事例検討(行政機関)① 18. 事例検討(行政機関)② 19. 事例検討(行政機関)振り返り 20. ここまでの事例検討を振り返って(自己覚知) 21. 事例検討(就労支援B型事業所)① 22. 事例検討(就労支援B型事業所)② 23. 事例検討(就労支援B型事業所)振り返り 24. 事例検討(就労支援A型事業所)① 25. 事例検討(就労支援A型事業所)② 26. 事例検討(就労支援A型事業所)振り返り 27. 就労支援の視点の違いについて 28. 事例検討(SSW)① 29. 事例検討(SSW)② 	<ol style="list-style-type: none"> 31. 学校教育現場の苦悩 32. 事例検討(児童養護)① 33. 事例検討(児童養護)② 34. 事例検討(児童養護)家族視点からの振り返り 35. 事例検討(アディクション)① 36. 事例検討(アディクション)② 37. 事例検討(アディクション)振り返り 38. 事例検討(施設コンフリクト)① 39. 事例検討(施設コンフリクト)② 40. 事例検討(施設コンフリクト)振り返り 41. 事例検討(地域支援)① 42. 事例検討(地域支援)② 43. 事例検討(複合事例)① 44. 事例検討(複合事例)② 45. 様々な福祉実践へ向けて(総合まとめ) 	
準備学習	新聞やニュースを通じて、社会における福祉問題に関心をもつこと。テキスト等の知識だけでなく、PC等を活用し、能動的にソーシャルワーカーの役割や専門性、書く社会資源についての理解を深めておくこと。		
教科書・教材等	レジュメ、資料、視聴覚教材等を適時提供		
授業の形式 教育機器の活用	対面形式 グループワーク等		
成績評価の方法	ソーシャルワークに関する課題内容/グループワーク等における貢献度で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義においては、講義を一方的に聴く受動的な学びではなく、学生同士や学生と講師等、双方向かつ能動的なコミュニケーションを大切にしています。お互いが良い影響を与え合い、その場にいる者同士が相互に経験を分かち合い、成長しあうことを目標としていますので、積極的に自身の考えを発信するよう努めてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目																																										
授業科目名	ソーシャルワーク実習指導	担 当 教 官 名	花島正晃／船曳美千子／山西紀律代																																										
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年																																										
必修・選択の別	必修	授業回数	45回																																										
授業のキーワード	自己覚知、ラポール形成、寄り添う支援																																												
授業の概要 及び到達目標	<p>精神保健福祉援助実習は、講義や演習で学んだ知識、技術、価値が精神保健福祉の実現場場で具体的にどのように展開されているのかについて学ぶ科目である。さらに当事者の置かれている状況やその心情を理解し、援助者との関係について把握し、信頼関係をどのように築いていくのか等、精神保健福祉士の在り方を理解していくことを目的としている。</p> <p>また、本講義は、専門職として大切にしなければならないことは何か、ソーシャルワーカーとしてクライアントに寄り添うとはどういうことかといった、ソーシャルワーク専門援助職としての基盤を構築することを重視し、本講義を経て、ソーシャルワーカーとしての視点や価値を理解し、習得する。</p> <p>【花島 教員経歴】 精神保健福祉士・社会福祉士・認定心理士。修士(健康福祉学)大学、短期大学等にて非常勤講師を経験。教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークに従事。</p> <p>【船曳 実務者経歴】 精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師。修士(社会福祉学)、法務博士(専門職)社会的養護経験者の自立支援相談業務経験あり</p> <p>【山西 実務者経歴】 精神保健福祉士、社会福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>																																												
講義計画・内容	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">1 実習概要とその目的・意義 1</td> <td style="width: 33%;">20-27 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導</td> </tr> <tr> <td>2 実習概要とその目的・意義 2</td> <td>28-29 実習振り返り</td> </tr> <tr> <td>3 実習概要とその目的・意義 3</td> <td>30-33 実習後グループ指導</td> </tr> <tr> <td>4 実習概要とその目的・意義 4</td> <td>34 地域実習配属直前指導1</td> </tr> <tr> <td>5 実習個人票の作成に向けて</td> <td>35 地域実習配属直前指導2</td> </tr> <tr> <td>6 実習個人票の作成</td> <td>36-41 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導</td> </tr> <tr> <td>7 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習</td> <td>42 実習振り返り</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>43 実習後グループ指導</td> </tr> <tr> <td>8 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習</td> <td>44 実習総括指導1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>45 実習総括指導2</td> </tr> <tr> <td>9 実習計画(医療・地域実習)作成1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 実習計画(医療・地域実習)作成2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11 実習計画(医療・地域実習)作成3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 専門職倫理と倫理綱領</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 実習事前訪問に向けて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 実習指導者会議 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 実習指導者会議 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 実習指導者会議 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17 実習中に起こる各種問題とその対処1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18 実習中に起こる各種問題とその対処2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19 医療実習配属直前指導</td> <td></td> </tr> </table>			1 実習概要とその目的・意義 1	20-27 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導	2 実習概要とその目的・意義 2	28-29 実習振り返り	3 実習概要とその目的・意義 3	30-33 実習後グループ指導	4 実習概要とその目的・意義 4	34 地域実習配属直前指導1	5 実習個人票の作成に向けて	35 地域実習配属直前指導2	6 実習個人票の作成	36-41 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導	7 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習	42 実習振り返り	1	43 実習後グループ指導	8 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習	44 実習総括指導1	2	45 実習総括指導2	9 実習計画(医療・地域実習)作成1		10 実習計画(医療・地域実習)作成2		11 実習計画(医療・地域実習)作成3		12 専門職倫理と倫理綱領		13 実習事前訪問に向けて		14 実習指導者会議 1		15 実習指導者会議 2		16 実習指導者会議 3		17 実習中に起こる各種問題とその対処1		18 実習中に起こる各種問題とその対処2		19 医療実習配属直前指導	
1 実習概要とその目的・意義 1	20-27 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導																																												
2 実習概要とその目的・意義 2	28-29 実習振り返り																																												
3 実習概要とその目的・意義 3	30-33 実習後グループ指導																																												
4 実習概要とその目的・意義 4	34 地域実習配属直前指導1																																												
5 実習個人票の作成に向けて	35 地域実習配属直前指導2																																												
6 実習個人票の作成	36-41 実習(巡回/帰校日/中間振り返り)指導																																												
7 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習	42 実習振り返り																																												
1	43 実習後グループ指導																																												
8 実習計画(医療・地域実習)に向けた事前学習	44 実習総括指導1																																												
2	45 実習総括指導2																																												
9 実習計画(医療・地域実習)作成1																																													
10 実習計画(医療・地域実習)作成2																																													
11 実習計画(医療・地域実習)作成3																																													
12 専門職倫理と倫理綱領																																													
13 実習事前訪問に向けて																																													
14 実習指導者会議 1																																													
15 実習指導者会議 2																																													
16 実習指導者会議 3																																													
17 実習中に起こる各種問題とその対処1																																													
18 実習中に起こる各種問題とその対処2																																													
19 医療実習配属直前指導																																													
準備学習	実習地、実習領域に関する機関や施設の事前学習を行うこと																																												
教科書・教材等	レジュメ、資料、視聴覚教材等を適時提供																																												
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク、個人ワーク、スーパービジョン等																																												
成績評価の方法	出席率、期間内提出を指示された課題、書類等すべての提出、グループワークへの積極的参加																																												
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目は精神保健福祉士の実践において基幹となる科目であるため、積極的に取り組むことを期待する。また欠席による課題等の未提出は認めない。																																												

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	ソーシャルワーク実習	担 当 教 官 名	花島正晃/船曳美千子/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	210時間
授業のキーワード	ソーシャルワーク、メンタルヘルス、価値・倫理・知識・技術、多職種連携 等		
授業の概要 及び到達目標	<p>・精神保健福祉士として必要な知識・技術・価値を実習施設(指導者・職員・利用者)から学び、理論と実践を結び付け、実践力を養う。</p> <p>・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズの実際について把握する。</p> <p>・ニーズに対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成・実施・評価を行う。</p> <p>・施設・機関等が地域社会で果たす役割について理解する。</p> <p>・実習指導者、実習担当教員からのスーパービジョンを基に、求められるスキルと役割を理解し、自己覚知を深める。</p> <p>・領域にとらわれることなく、包括的な支援における多職種や地域住民等との連携の在り方を理解する。</p> <p>【花島 教員経歴】 精神保健福祉士・社会福祉士・認定心理士。修士(健康福祉学)大学、短期大学等にて非常勤講師を経験。教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークに従事。</p> <p>【船曳 実務者経歴】 精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師。修士(社会福祉学)、法務博士(専門職)社会的養護経験者の自立支援相談業務経験あり</p> <p>【山西 実務者経歴】 精神保健福祉士、社会福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> ①施設・事業所の機能・役割の理解 ②施設・事業所と地域の関係性の理解 ③各精神疾患の特徴理解 ④利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、地域住民やボランティアとのコミュニケーション、関係性構築の理解 ⑤利用者や地域とのかかわりを通じて、生活課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価の方法の理解 ⑥多職種の役割理解、多職種連携・チームアプローチの理解 ⑦社会資源の活用・調整・開発の理解 ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際の理解 ⑨精神保健福祉士の職業倫理・役割の理解 ⑩ソーシャルワークの技術の実践的理解(アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ファシリテーション・ネゴシエーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション等) 		
準備学習	各自の実習先について、調べてもらうことがあります。		
教科書・教材等	自身の実習先病院・施設・事業所について、各自調べる。		
授業の形式 教育機器の活用	現場実習		
成績評価の方法	実習日誌の提出及び、実習先からの評価、実習巡回指導等を元に、総合的に評価する。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	ソーシャルワーク実習は、実習生の学ぶ姿勢により、その学びが大きく左右されることを念頭に、積極的な学びの姿勢を求める。また、実習を通じて自己覚知を深め、長所は伸ばし、短所は改善を試み、求められる専門職に近づく成長の機会としてほしい。		